



石原 武志 議員

質問 第11回宮城全共出場を終え
今後の畜産振興策は

町長

若年層が関心を持てる取組みをしていきたい

質問 5年ごとに開催される全国和牛能力共進会は、県下最多出場牛を擁し奥出雲和牛の名を全国に知らしめた。大会を終えた所信は。

町長 県下26頭中半数近い11頭が本町からの出品で、和牛の本場と強く再認識したが、改めて九州勢の強さを痛感した。今後も優良雄子牛の導入や保留の支援、次代に引き継ぐ取組みを検討していく。

質問 今回上位3位までの入賞は逃したものの、幾多の区において入賞を果たした。業界の評価に厳しい点はあるが、今回の実績やその示した成果は本町畜産家の強力な実力であり伝統であると感じる。

町長 今後5年、10年先の畜産経営の課題や問題点について対策を問う。

町長 畜産農家の高齢化が進む中、若者が興味を持てる畜産振興策や後継者対策、優良繁

殖雄牛保留事業の見直しによる支援の事業化に取り組みたい。

質問 若者が興味を持てる取組みとは具体的にどのような施策か。

町長 全くの私案だが、共進会の場で幼児園や小学校児童と牛の触れ合いの場を作ること、中学校、高校でクラブ活動形式での畜産活動



宮城全共での審査風景 次世代に引き継ぐ取組みが必要

農業公社での学びの場作り等で興味を持てる事業を展開してみたい。

質問 畜産事業は県やJA、公社などと協調して進めねばならないが、底辺を広げる活動は独自の方針でできる。畜産振興や産業振興のため農業公社の参入や高齢者対策の一環としての牛飼育事業構築など、町独自の事業展開は実行できないか。

町長 農業法人参入の支援は水田関係が主体だ。共同機械購入や施設整備で国、県の補助事業と合わせながら、町財政の状況により検討していく。また青年就農者への支援等も同様だ。

質問 女子ホッケー部が総体で上位入賞を果たした。今後さらに常勝チームとして再育成

横田高校能力化について

する方策はどのように考えるか。

教育長 横高ホッケー部は6名の県外出身生徒が在籍し、チームの強化につながっている。町体協議員2名が外部指導者として仁多、横田中学校で指導し、5年以上全国大会でベスト4入りを果たしている。

質問 今後競技児童数の減少対策を強化し、小学校から中学、高校へと繋がるよう検討したい。

教育長 部活専用の町営寮の設置を、例えば旧高田小学校などどうか。

教育長 いずれの施設も建築から50年以上経過しており改築が必要と考えている。しかし高額の費用を要することもあり総合的に判断し取組みたい。